

【特集】 遺伝看護専門看護師の活動紹介

産科病棟における遺伝看護専門看護師の活動

中村 明日美
聖路加国際病院

I. 現在の活動

私は2020年に遺伝看護専門看護師に認定され、現在は聖路加国際病院の産科病棟に所属しCNSの活動をしている。認定される以前も他施設の産科病棟で勤務しており、これまで遺伝的課題を有する妊娠期から産褥期の女性とその家族や新生児に対するの看護を行ってきた。当院は年間分娩件数が1400件ほどの地域周産期母子医療センターでもあるため、夜勤を含む病棟助産師としての役割も果たし、2020年以降は新型コロナウイルスに感染した妊産婦への対応なども新たな業務として加わった。遺伝診療に特化した部門に所属していない分、産科病棟において患者の潜在的な遺伝看護のニーズを見つけて対処ができることや、入院日数の短い病棟で明らかになった遺伝看護課題にも速やかに介入できることが、自身の強みだと思っている。

遺伝看護専門看護師としての活動は、助産師が日常的に行っている看護実践の中にある。妊娠中の保健指導の場である助産師外来では、詳細な既往歴の聴取や家族の健康状態を確認して、遺伝性疾患を示唆するような症状がないか確認している。授乳されている方の乳房のケアで硬結や腫瘍について相談されたときにはフィジカルアセスメントを行い、状態を説明するとともに家族歴を聴取し、必要時は遺伝性腫瘍について情報提供している。出産直後、生まれてきた児の先天異常がわかることもある。そのような場合、継続的な支援の第一歩として適応の段階を評価することが重要である。褥婦やパートナー、児の養育に関わるキーパーソンがそれぞれ感情表出できるように環境を調整し、カウンセリング技法を活用しながら傾聴するなど、意図的に関わるように

している。妊娠中に胎児の染色体異常がわかっている方もいるため、入院前にその特徴や看護を展開する際の留意点を検討し、受け持ちスタッフや必要物品を調整したりスタッフからの質問や相談に対応したりしている。さらに、人工妊娠中絶の選択をされるカップルの中には出生前検査後の方も多いため。遺伝カウンセリング来談時からカップルに関わっている認定遺伝カウンセラーと協働し、家族にとってクリティカルな場面を共に過ごすことが、助産師としてできる遺伝看護であると考えている。もちろん、すべての患者および家族への対応を私一人ができるわけではない。意図せずとも遺伝看護を行っている助産師達がいればこそであり、その中で生じた疑問や葛藤の解決に私の知識や技術が役立てばと思っている。

注力して行っていることとして、月に1回開催している産科外来、遺伝診療センター、新生児科と情報共有を行うミーティングがある。外来での患者の様子を知ることで病棟での看護に役立て、入院中の様子を共有することでシームレスなケアを行えるようにしている。外来や遺伝診療センターから病棟へのフィードバックは、病棟で行っている看護の評価になることがあるため病棟スタッフへ還元するという副次的な効果も得られている。

II. 今後の課題

近年、本邦における着床前検査のあり方について変化が起きつつある。2022年1月に公表された重篤な遺伝性疾患を対象とした着床前遺伝学的検査に関する見解/細則（日本産科婦人科学会，2022）では、PGT-Mの新たな審査システムが明示された。本見解は2022年4月より運用開始予定であり、着床前検査

査に関する法令がない日本においては全国的に共通認識された運用方法の一つとなるだろう。また、不妊症および不育症を対象とした着床前遺伝学的検査に関する見解（日本産科婦人科学会, 2022）はPGT-A/SRについての内容であり、検査目的に応じた運用となっている。将来的に、着床前遺伝学的検査を受けた、あるいは受けるかどうか考えたカップルが増加する可能性があり、その経験が妊娠中および産後の精神状態に関わることが予測される。そのような女性やカップルの支援を検討するための研究を今後行いたいと考えている。

また、病棟の若手スタッフに遺伝という言葉のイメージを聴くと、「難しくてわからない」と返答されることは珍しくない。だが母子の健康に関わる専門職として、臨床現場に必要な知識の習得や適切な看護の提供が必須であることは自明である。教育活動として、新人から若手スタッフを対象として臨床遺伝学の基礎知識や出生前検査等の勉強会を開催し、卒後教育の拡充に取り組みたいと考えている。

遺伝/ゲノム医療はますます進歩しており、同時に遺伝看護の対象や内容も拡大し複雑化している。遺伝看護専門看護師として、個別のケースへ対応するとともに、遺伝リテラシーの向上や情報発信など地域や社会全体の課題に対しても取り組んでいきたい。

文献

- 日本産科婦人科学会. 重篤な遺伝性疾患を対象とした着床前遺伝学的検査に関する見解/細則 (2022). https://www.jsog.or.jp/activity/rinri/19_pgt-m-kenkai-saisoku.pdf (2022年2月参照)
- 日本産科婦人科学会. 不妊症および不育症を対象とした着床前遺伝学的検査に関する見解 (2022). https://www.jsog.or.jp/activity/rinri/20_pgt-asr-kenkai.pdf (2022年2月参照)
- 日本産科婦人科学会着床前診断に関する審査小委員会. PGT-Mの見解改定に関する説明 (2022). https://www.jsog.or.jp/activity/pgt-m/1_pgt-m-kaisetu.pdf (2022年2月参照)